

### 子どもの本だな 82

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

#### かにむかし

木下 順二 文 清水 崑 絵 (岩波書店)

カニが、水をやりこやしをやって育てた柿の木に、まっ赤な実がなりました。カニが木に登れずにいると、サルがやってきて柿を次々に食べ、下で待つカニに青い実をぶつけました。潰されたカニの下からはい出したカニの子たちは仇討ちに出かけました。途中でクリ、ハチ、ウシのフン、はぜぼう、石うすを仲間にし、サルのぼんばに着きました。一行は、それぞれの場所に隠れてサルの帰りを待ちます。帰ってきたサルはいろいろで温まろうとしますが、熱くなったクリに背中を弾かれました。水をかぶろうと水桶に手を入れると体中をカニに挟まれ、逃げようとしたところをハチに刺されます。戸口を飛び出そうとしてウシのフンに足を滑らせ、頭をはぜぼうでぶたれた挙句、石うすに潰されました。

日本の昔話。素朴でコミカルな絵とテンポよく進む文章が、話の雰囲気盛り上げます。

読んでもらえば3歳くらいから。(光藤)

#### 長くつ下のピッピ

アストリッド・リンドグリーン 作 大塚 勇三 訳 (岩波書店)

スウェーデンの小さな町の古い一軒家「ごたごた荘」に、ピッピ・ナガツシタと言う女の子が、サルのニルソン氏と1頭の馬と一緒に住んでいました。お父さんとお母さんはいません。学校にも行っていません。ピッピはいつでも自由です。

ある日、ピッピを「子どもの家」に入れようと、おまわりさんが2人やって来ました。「いく気はないわ!」ピッピは2人の手からすばしっこくすり抜けて「鬼さんこちら!」ぴよんと2階のバルコニーへ飛び、屋根、煙突、最後は木へ飛び移り地面にすんと降りました。怒って飛びかかってきた2人をピッピはひょいと持ち上げ道まで運び、ピッピ特製ショウガ入りクッキーをあげました。「ピッピ、おまわりさんと鬼ごっこをする」

泥棒とポルカを踊ったり、火事の家から子供たちを助けたり、世界一つよい女の子ピッピの活躍が生き生きと描かれています。続編に『ピッピ船にのる』『ピッピ南の島へ』があります。9歳くらいから。(池之上)

9月	10月	9・10月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
3日	8日	塚森 地域内 10:30~ 10:50	沖代 地域内 11:00~ 11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~ 14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
10日	15日			原池団地 公民館 15:00~ 15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
17日	22日	広坂 公民館 10:30~ 10:50	上太田 公民館 11:00~ 11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

#### <お知らせ>

##### 絵本の時間・おはなしの時間

9月の「絵本の時間」「おはなしの時間」の日程をお知らせします。(一部、規模を縮小して行います。)

##### ◆「絵本の時間」

・9月3、10、17日の木曜日  
11:00~11:30

##### ◆「おはなしの時間」

・9月5、12、19、26日の土曜日  
・11:00~11:30  
・対象:4歳~中学3年生

##### 【注意】

- ①人数が多い場合は、**人数を制限**させていただきます。
- ②おはなしの部屋に入る時は、**マスクの着用**をお願いします。

# 『カラスは飼えるか』

松原 始 著

新潮社 223頁 2020年3月刊 1,400円 (請求記号) 488.9

本書は、「カラスの悪たくみ」というウェブ上の連載を単行本にまとめたものであるが、24回の連載の中で「カラスは飼えるか」という回がダントツで人気だったので、それを書名にしたという。確かに、カラスを飼いたいと思ったことはないが、「飼えるか」と言われると興味をそそられる。

日本の法律では、許可をとっての救護の場合等を除き、基本的に野鳥は飼ってはいけない。もし例外的に飼う方法があったとしても、カラスを飼うのは大ごとだと著者は言う。まず、カラスは大きい。小型犬サイズのものが羽を広げて立体的に動き回れば、羽ばたきで紙類が吹っ飛ぶ。いたずら好きのため、気になるものは全てつついて破壊する。栄養を考えた餌の準備も大変だ(気に入ったごちそうは隠す習性もある)。というわけで、結論は「基本、飼えない」。「カラスは食えるか」の章では、食べることはできるが、鉄分を大量に含むため鉄臭く、脂気がないのでかたく、よほどの下処理をしないとうまいものではないと言う。

著者は大学の卒業研究でカラスを取り上げ、修士・博士課程もカラスの採餌行動をテーマに研究し、現在もカラス研究を続けているほどカラス好きであるが、カラス以外の鳥や動物全般についても、話は広がっていく。

「鳥を導くもの」では、渡り鳥がどうやって方向を定めているのか、その様々な方法に驚いた。基本的には天測、つまり太陽と星座を見て飛ぶ。太陽が移動しても体内時計により補正し、夜は星座のパターンを記憶して回転の中心を見つけ出すという。地球の磁気や嗅覚も使っているらしい。さらに、人間よりも低い周波数の音が聞こえるので、山に当たる風の音、海辺の波の音も手掛かりにしている可能性もある。このように、ありとあらゆる感覚を総動員して方角を決め、その上に経験を重ねて地上の目標を覚え、風に流されても修正しながら目的地にたどり着くのである。人間の想像以上の能力である。

軽妙で笑いを誘う語り口で、身近なカラスから人気の猛禽類、絶滅したドードー鳥や恐竜の子孫としての鳥類にいたるまで、著者の生きもの全体への好奇心があふれている。同著者の『カラスの教科書』『カラスの補修授業』(雷鳥社)も合わせて読むとさらにカラスに愛着がわいてくる。

(池田)

## ＜返却ポストができました＞

図書館閉館時に本の返却ができるようになりました。(ただし、年末年始は除きます) どうぞご利用ください。  
※CDは返却ポストへ入れず、開館時にカウンターへ直接お返しください。

\*カレンダーの×印は休館日  
(9/23、24は祝日の振替、  
9/30は館内整理日、  
10/26、28は特別館内整理日)

\*開館時間は10:00～18:00、  
金曜日は20:00まで開館

## 9月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		×	2	3	4	5
6	7	×	9	10	11	12
13	14	×	16	17	18	19
20	21	×	×	×	25	26
27	28	×	×			

## 10月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	×	7	8	9	10
11	12	×	14	15	16	17
18	19	×	21	22	23	24
25	×	×	×	29	30	31

## 地下水

十数年前、当図書館で様々な研修を受け、地域の文庫活動にたずさわり、ひよんなことからここで働き始めて6年が過ぎた。最初の頃、何より驚いたのは利用者との距離が近いことだった。その人の好みにあった本を手渡そうとする司書の姿と同時に本のことのみならず興味深い事柄を伝えてくださる利用者。これが地域に根ざした図書館サービスなのだ!と思った覚えがあるが、毎日新たにその思いを強くする。

今では親しい利用者がいる。来るたびに「読んで」と声をかけてくるDくんやSちゃん。コロナ禍で中止しているおはなしの時間はいつからするのかと聞くYちゃん。そして小学生の頃から弟妹とお話を聞きに来ていたY君は高校生になった今も「お勧めの本は？」と声をかけてくれる。

先日の「おはなしの夕べ」に、かつて毎月園児たちと図書館でおはなしを楽しんでいたI先生が入り、終わった後でいねいに感想を言ってくれた。2つの詩が印象的だったこと、絵本『ターちゃん』と『ペリカン』にはほっこりしたこと。でもなによりもお話「かしこいモリー」については「昔話って生きるということに根ざしているんだなあと思った」と、とても的確な言葉をもらった。利用者との距離が近い分、司書としての力も試されることが多い。学ぶことの重要性を強く感じる日々だ。

(西村)

